

(6) 巣鴨の粹：エキープ・エスパス

1. 認識：白山通りの拡幅をどのようにとらえるか

現状：「みち」と「道路」の機能分担と「表」と「裏」の関係

旧中山道：表、みち

様々な行為が発生する人を中心の空間ということが出来る（以下、地蔵通りのような利用可能性をもつ空間を『みち』と呼ぶ）

白山通り：裏、道路

移動と輸送のための空間としてのみ機能している（以下、移動・輸送のための空間を『道路』と呼ぶ）

現在の巢鴨が、寺院や商店街の努力の上に成立していることは承知の上であるが、白山通りが開通したことにより、旧中山道は都市施設として移動・輸送を支える役割を免れ、「みち」として魅力的な空間を維持したとも言える。

様々な複合的な要因の結果、生活、参詣、観光のいずれにおいても、「みち」である旧中山道が「表」であり、「道路」である白山通りは「裏」となっていると言える。

白山通り拡幅の捉え方：もうひとつの「みち」の可能性

「道路」機能の拡充に併せて、少なくとも現状よりは安全で歩きやすい歩行者空間が整備される。このことは、「みち」の基盤となる空間が確保され、この地域にもう一つの「みち」が展開していく可能性が与えられると考える。

地蔵通りと拡幅後の白山通りの関係：「表と裏」から「広がりと奥行き」へ

白山通りの拡幅によって、高層建築が可能になるなど、これまでの巢鴨の街づくりからみればマイナス面も発生する。これについては、景観法の適用や諸協定などによって、影響を最小限にする努力が今後継続して必要になってくる問題であるが、ここでは、プラスの面としての可能性について掘り下げたい。

先にも述べたが、白山通りの歩道に可能性をみれば、表・裏の関係ではなく、「地蔵通り」ともう一つの「みち」という関係として捉えることが出来る。

また、この可能性は、地蔵通りにとって表と裏の逆転といった脅威となるものではなく、物理的、質的な街の広がり、奥行きにつながるものであり、白山通り側の新しい空間と機能により地域イメージや地蔵通りの街づくりにも貢献していくものであると考える。

2. 期待すること

地域が持つ潜在的価値の発現

白山通りの拡幅と、このワークショップを契機として、それぞれの「みち」「場所」の充実と仕掛けにより、従来の地蔵通りの活気を維持、発展させながら、新しい地域イメージ、界隈性、魅力を創り出し、地元住民にとっても、来訪者にとってもより魅力的な街となっていくことを期待する。

現在のイメージ

印象の固定化

「とげ抜き地蔵、おばあちゃんの原宿」のイメージが強い。

巣鴨を支える顧客の多くは真性寺、高岩寺、なじみの店など、限定的な目的をもって来訪している印象を受ける。

街の構造

直線的かつ限定的な強い領域性。

周辺地域との一体のイメージや回遊性が弱い印象がある。

こうしたイメージや構造は、魅力の裏返しでもあり、地蔵通り自体の街づくりの方向を変更する必要はないと考えるが、周辺地域の資源もとりこみながら、新しい回遊性を発生させ、新しい顧客層の獲得につながる巣鴨の魅力や役割の発見が可能なのではないかと考える。以下に周辺地域を取り込む地域イメージをまとめる。

地域イメージの可能性（図参照）

緑によって束ねられるイメージ

この地域は、染井霊園、六義園、古河庭園などの緑資源が徒歩圏内である。

歴史によって束ねられるイメージ

地蔵通りには中山道のルート、真性寺、高岩寺、庚申塚が現存し、板橋宿前の立場の歴史背景をもっている。また、霊園、庭園は貴重な歴史資源である。

昭和・レトロな雰囲気によって束ねられるイメージ

地蔵通りの魅力のひとつに、懐かしさともいいうべき昭和的雰囲気、レトロな雰囲気がある。雑司ガ谷霊園周辺もレトロな雰囲気をもち、レトロな交通機関である都電により結び付けられる地域であり、一体的なアピールが可能。

街づくりのねらい（図参照）

白山通り側の「みち」づくりや、地域イメージをアピールしていくことは次の効果を期待するものである。

新しい顧客の獲得

先述した地域イメージを発信することで、縁好き、歴史好き、電車好き、掃苔好きなど、主目的は他の施設や街にある人達にも、巣鴨に立ち寄ってもらい、飲食・買い物・お参りをしてもらう。

巣鴨駅方向から庚申塚までの客の誘引と庚申塚側からの客の誘引の効果を期待するものである。

線的構造から面的構造に展開することによる地蔵通り自体の魅力の向上

もうひとつの「みち」づくりによって、快適な歩行空間や白山通り側に街を生成する要素となる店舗などが出来ていけば、巣鴨地区内の回遊性が発生する。白山通り側に全く異なる雰囲気が創られれば、それぞれの魅力による相乗効果が期待できる。また、二つの「みち」をつなぐ路地にも新しい店舗や雰囲気がうまれる可能性も期待できる。

路地的空間や街の迷路性は、来訪者にとって未知の空間を通した発見などの形でツーリスティックな刺激や楽しみを与えるものであり、巣鴨がもっている面白さ・楽しさをより向上させるものと考える。

3. 街づくりへの提案

白山通り：もうひとつの「みち」づくり

白山通り自体を快適な「みち」とし、「緑」の地域イメージに寄与するものとしていくために、以下の方針による空間整備を提案する。

安全・快適な歩行者空間としての機能をしつらえる。

適正な有効幅員

風格ある街路樹を育成する

十分な植樹帯の確保

地蔵通り：より楽しく、より優しい「みち」づくり

地蔵通りをより魅力的な「みち」としていくために、以下の整備と企画を提案する。

「みち」としての空間性能を高める

- ・歩道の撤去、排水設備の更新など断面構造の変更
- ・保水性舗装（歩きやすさ。微気象の緩和）

より一層の「おもてなし」

来訪者に楽しんでもらう効果と地蔵通りの連続性の表現

- ・街全体の季節の花飾り 軒先に季節の花を飾る
- ・街全体でのお休み処づくり 軒先に縁台、日よけを置く
縁台ワークショップなどの実施

・案内の充実

自主的に歩行者案内板の設置することで、きめ細かい情報発信を行う（東京都建設局 規制緩和行動計画 民間資金による歩行者案内板の設置 の適用）

・打ち水（おもてなし効果 夏は涼しく、冬は埃をたてない）



三角広場：巣鴨の「みち」のかなめ

歴史的価値：江戸の出入り口、真性寺門前

地理的価値：歴史街道中山道の起点、地蔵通り商店街の入り口

歴史的・地理的価値を視覚化する

- ・シンボルになる樹木の植栽
- ・舗装による見切り、らしさの演出
- ・季節の樹木展示

「みち」の一部としてしつらえる

みちとしての性能維持と利用可能性を広げるために、フラットな広場とし、施設も必要最小限とする。

休憩施設は、地蔵通りのおもてなしの一環として移動可能な縁台や日除けを設置する。



樹木展示例

正月：松

春：桜

夏：竹 など

地蔵通り入口として活用する

- ・わかりやすい案内板（前掲）
- ・人寄せや宣伝（ちんどん など）

注)

掃苔（ソウタイ）

墓の苔を掃い、その人の人生に思いをはせ冥福を祈ること。著名人などの墓を訪れること。

保水性舗装

保水性舗装は、雨の日などに吸収した水分を晴れた日に蒸発させ、気化熱を奪うことにより、道路に水をまいたときと同じようにして、道路の表面温度を低下させる効果がある。

縁台ワークショップ

荒野真司氏が率いる深川美術縁台部が企画実施する縁台づくり、縁台設置、縁台を使った路上での宴などの縁台美術活動。縁台美術活動のフィールドを「まち」に拡げて、江東区深川地区、門前仲町周辺および高橋商店街他にて縁台設置活動や縁台制作ワークショップを多数実施。